

**「生活者としての外国人」に対する日本語教育
における指導力評価について**

[案]

平成25年2月18日

文化審議会国語分科会

目 次

I. はじめに	1
II. 「生活者としての外国人」に対する日本語教育と指導力評価について	
1. 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標	2
2. 指導力評価に関する論点とその検討結果	2
(論点1) 評価の目的	3
(論点2) 評価の対象 (何を評価するか)	3
(論点3) 評価対象者 (誰を評価するか)	3
(論点4) 評価者 (誰が評価するか)	4
(論点5) 評価の方法	4
(論点6) 評価で使用する資料	4
III. 「指導力評価の手引き」(※) について	
1. 指導力評価について	5
2. 日本語指導力ポートフォリオ	5
3. 研修のプログラムの例	6
4. 参考	6
IV. 今後の課題について	6

【7ページから66ページ】

※ 「指導力評価の手引き」

1. 指導力評価について	10
(1) 日本語教育小委員会における検討経緯について	10
(2) カリキュラム案等の概要について	12
(3) 指導力評価の考え方について	15
2. 日本語指導力ポートフォリオについて	20
(1) 指導力評価項目一覧について	20
(2) 指導力評価に関するチェックシートについて	30
(3) 日本語教育プログラムの実践の記録について	40
(4) 研修受講の記録について	42
3. 研修のプログラムの例について	44
4. 参考	48
(1) 指導力評価に関するチェックシートのパソコン上での活用方法	48
(2) カリキュラム案で扱う生活上の行為の事例の一覧 (多言語版)	53
(3) 日本語教育プログラムの作成手順	66

<参考資料>

・「生活者としての外国人」に対する日本語教育における指導力評価について [概要]	68
・小委員会の設置について	69
・文化審議会国語分科会日本語教育小委員会委員名簿	70
・ワーキンググループの設置について	71
・文化審議会国語分科会日本語教育小委員会指導力評価に関するワーキンググループ名簿	72
・審議経過	73

I. はじめに

文化審議会国語分科会日本語教育小委員会（以下「日本語教育小委員会」という。）では第8期（平成20年2月から21年2月）において、日本語を母語としない住民に対する施策検討の必要性が高まっていることを踏まえ、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の体制整備及び内容の改善について検討を行った。

平成21年1月には「国語分科会日本語教育小委員会における審議について—日本語教育の充実に向けた体制整備と「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容等の検討—」（以下「21年報告」という。）の取りまとめを行い、今後の課題として標準的なカリキュラム案の開発、参考例としての教材作成、日本語能力及び日本語指導力に関する評価の検討を挙げ、これまで下記の取りまとめを順次計画的に行ってきた。

その最終段階として、日本語教育小委員会では平成24年5月から「生活者としての外国人」に対する日本語教育における指導力*1評価（以下「指導力評価」という。）について、検討を行い、その結果をここに取りまとめた*2。

- ・平成22年5月19日
「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について（以下「カリキュラム案」という。）
 - ・平成23年1月25日
「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック（以下「ガイドブック」という。）
 - ・平成24年1月31日
「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案教材例集（以下「教材例集」という。）
 - ・平成24年1月31日
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について（以下「能力評価」という。）
- ※上記四つをまとめて、以下「カリキュラム案等」という。

*1 「指導力」：指導力の内容については、3ページの論点2を参照。

*2 指導力評価の検討に当たっては、「平成22年度 生活日本語の指導力の評価に関する調査研究業務委託（文化庁事業）」により作成された以下の報告書を参考とした。

- ・公益社団法人国際日本語普及協会（2011）『生活者日本語の指導能力の評価に関する調査研究』
- ・社団法人日本語教育学会（2011）『生活日本語の指導力の評価に関する調査研究』
- ・財団法人日本国際教育支援協会（2011）『生活日本語の指導力の評価に関する調査研究報告書』

Ⅱ. 「生活者としての外国人」に対する日本語教育と指導力評価について

1. 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標

「生活者としての外国人」とは、誰もが持っている「生活」という側面に着目して、我が国において日常的な生活を営む全ての外国人を指すものである。

日本語が主たるコミュニケーション手段となっている我が国において、「生活者としての外国人」には、生活場面と密着したコミュニケーション活動を可能とする能力を獲得することが求められる。そこで21年報告では、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標を以下のように整理している。

(1) 目的

言語・文化の相互尊重を前提としながら、「生活者としての外国人」が日本語で意思疎通を図り、生活できるようになること

(2) 目標

- 日本語を使って、健康かつ安全に生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、自立した生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、文化的な生活を送ることができるようにすること

日本語教育小委員会では、「生活者としての外国人」が我が国で暮らす上で最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行えるようになり、この目的・目標を達成するために必要な日本語教育の内容をカリキュラム案により示した。このカリキュラム案をより有効に活用するために、地域や外国人の状況等（以下「地域の状況」という。）に応じたカリキュラム案の活用方法をガイドブックにより示し、また、教室活動において使用する具体的な教材の例を教材例集により示した。

さらに、学習者の日本語能力を把握し、継続的な日本語学習を支援するため、生活上の行為達成の記録、学習の記録、社会生活の記録を蓄積するファイルである日本語学習ポートフォリオを能力評価により示した。

2. 指導力評価に関する論点とその検討結果

上述の「1. 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標」を踏まえ、指導力評価に関し、以下の六つの論点について検討を行った。

（論点1）評価の目的

日本語教育小委員会ではこれまで、「1.「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標」に記述した目的・目標を達成するために、必要な日本語教育の内容をカリキュラム案により示した。このカリキュラム案をより有効に活用するためにガイドブック、教材例集、能力評価を順次計画的に取りまとめてきた。このような経過を踏まえ、指導力評価についても、その延長線上のものとして位置付けることとした。

そのため、評価の目的については、「生活者としての外国人」に対する日本語教育を行う上で必要な能力一般ではなく、「生活者としての外国人」に対する日本語教育をカリキュラム案等を活用して行う上で必要な能力について評価（活動の振り返りや見直しなどを含む。）することにより、その向上を図り、「生活者としての外国人」のニーズにより一層応えうる日本語教育の実現につなげることとした。

（論点2）評価の対象（何を評価するか）

「生活者としての外国人」のニーズにより一層応えるためには、学習者に対する直接的な日本語の指導を行う能力にとどまらず、それを含め、地域の状況に応じた日本語教育プログラムの企画(P l a n), 実施(D o), 点検(C h e c k), 改善(A c t i o n)（以下「日本語教育プログラムの実践」という。）をPDCAサイクルに基づいて行う能力が求められる。

そのため、評価の対象(何を評価するか)、すなわち指導力評価という指導力(以下「指導力」という。)については、論点1の評価の目的を踏まえ、カリキュラム案等を活用して、地域の状況に応じた日本語教育プログラムの実践をPDCAサイクルに基づいて行う能力とした。

なお、知識については、既に民間において日本語教育能力検定試験*³や日本語教師検定*⁴が実施されているため、評価の対象として取り上げないこととした。

（論点3）評価対象者（誰を評価するか）

論点2の検討結果を踏まえ、評価対象者(誰を評価するか)については、(1)学習者に対する直接的な日本語の指導に携わる者(以下「地域日本語教育指導者」という。)と(2)行政や地域の関係機関等との連携の下、日本語教育プログラムの実践(直接的な日本語の指導を除く)に携わる者(以下「地域日本語教育コーディネーター」という。)とした。((1)と(2)を合わせて「実践者」ということとする。)

地域日本語教育指導者と地域日本語教育コーディネーターはいずれも一定の役割の者に対する便宜上の名称であり、特定の資格者や勤務形態にある者を指すものではない。

なお、指導力は勤務形態や活動形態(ボランティアかどうかなど)によって基本的に変わるものではないので、実践者の勤務形態や活動形態の違いに基づく評価対象者の細かな設定は行わないこととした。

*³ 日本語教育能力検定試験は、公益財団法人日本国際教育支援協会が主催。

*⁴ 日本語教師検定は、一般社団法人全国日本語教師養成協議会が主催。

(論点4) 評価者(誰が評価するか)

評価者(誰が評価するか)については、実践者が自らの指導力について自己評価を行うことを基本とした。

これは、まずは、実践者が自ら評価することにより、自らの指導力を把握することが重要であり、それによって指導力の向上のための意識的な取組を促すことにつながると考えたためである。

ただし、実際には日本語教育プログラムの実践の形態やそれに関わる人の数・役割等によって他の実践者や学習者等による評価もあると考えられる。

(論点5) 評価の方法

評価の方法については、指導力を評価するために必要な項目を一覧にした指導力評価項目一覧から、実践者が自らの役割として必要な項目を選択して作成するチェックシート(以下「指導力評価に関するチェックシート」という。)を用いて3段階(「◎(よくできている)」、「○(できている)」、「△(できていない)」)で評価を行うこととした。これは、評価結果の段階的な変化を振り返られるようにしておくことが、指導力の向上のための意識的な取組を促すことにつながると考えたためである。

あわせて、日本語教育プログラムの実践の過程や指導力の向上の変遷や理由などを振り返ることができるよう工夫することとした。

なお、指導力評価項目一覧では、それぞれの項目が地域日本語教育指導者、地域日本語教育コーディネーターのどちらを対象としているかを参考として示しているが、実践者は自らの役割として必要な項目を選択し、指導力評価に関するチェックシートを作成することを想定している。

(論点6) 評価で使用する資料

実践者が自らの指導力を評価し、指導力の向上のための取組を行い、日本語教育プログラムを実践することを支援するため、実践者が利用しやすいよう指導力評価を行うための手引き(以下「指導力評価の手引き」という。)を作成することとした。また、指導力評価に関するポートフォリオ(以下「日本語指導力ポートフォリオ」という。)をこの手引きの中心として位置付けることとした。

なお、ここでいう日本語指導力ポートフォリオとは、実践者の指導力の把握及び向上のための振り返りに活用するための、指導力評価項目一覧、指導力評価に関するチェックシート、日本語教育プログラムの実践の記録、研修受講の記録を蓄積するファイルである。

Ⅲ.「指導力評価の手引き」について

7 ページから 66 ページの「指導力評価の手引き」は、「1. 指導力評価について」、「2. 日本語指導力ポートフォリオ」、「3. 研修のプログラムの例」、「4. 参考」から構成している。

1. 指導力評価について

指導力評価の前提である日本語教育小委員会における検討経緯、カリキュラム案等の概要及び指導力評価の考え方についてまとめている。

2. 日本語指導力ポートフォリオについて

日本語指導力ポートフォリオは、①指導力評価項目一覧、②指導力評価に関するチェックシート、③日本語教育プログラムの実践の記録、④研修受講の記録から構成している。以下、①～④のそれぞれについて、解説と一覧あるいは記録の様式を掲載している。

「①指導力評価項目一覧について」は、指導力を評価するために必要な項目を一覧にしたものである。また、それぞれの項目が、地域日本語教育指導者、地域日本語教育コーディネーターのどちらを対象としているかも参考として示している。

「②指導力評価に関するチェックシートについて」は、実践者が、指導力評価項目一覧から、自らの役割として必要な項目を選択し、作成することとなる。なお、指導力評価に関するチェックシートにはそれぞれの選択した項目について、評価結果だけでなく、評価の理由や背景等のコメントを記載する欄を設けている。

「③日本語教育プログラムの実践の記録について」は、日本語教育プログラムの実践に当たっての課題、目標、経過、成果及び新たな課題等を記録するものであり、実践者が日本語教育プログラムの実践の過程を振り返るために作成するものである。

「④研修受講の記録について」は、指導力の向上のために受講した研修について記録するものであり、実践者が自らの指導力の向上の変遷や理由を振り返るために作成するものである。

日本語指導力ポートフォリオは、いずれも、実践者が地域の状況に応じて、工夫を加えて使いやすいものにした上で活用されることを期待している。

なお、日本語指導力ポートフォリオには、実践者の個人情報が含まれる可能性があり、周りの人間に見せるかどうか、どの部分を見せるかといった管理運用は実践者自らの適切な判断に基づいて行われることが基本である。

3. 研修のプログラムの例について

研修のプログラムの例は、実践者の指導力の向上のための研修を地域において実施するに当たって、参考となるような例を地域日本語教育指導者、地域日本語教育コーディネーターの別に示したものである。

それぞれ、研修の目的、内容、流れを示しているが、各地域においては、地域の状況に応じて、研修を企画、実施することが期待される。

4. 参考

参考として、指導力評価に関するチェックシートのパソコン上での活用方法、カリキュラム案に掲載している「カリキュラム案で扱う生活上の行為の事例」の多言語版及びガイドブックに掲載している「日本語教育プログラムの作成手順」を掲載している。

IV. 今後の課題について

日本語教育小委員会では、21年報告において、今後の課題として標準的なカリキュラム案の開発、参考例としての教材作成、日本語能力及び日本語指導力に関する評価の検討を挙げ、カリキュラム案等の取りまとめを順次計画的に行ってきたが、指導力評価をもって「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容及び方法に関する検討は一旦終了することとなる。

今後、まずは指導力評価やカリキュラム案等の周知・普及に努め、「生活者に対する外国人」に対する日本語教育の更なる充実につなげることが必要である。また、周知・普及と並行して、各地域におけるこれらの活用状況を把握し、地域の状況に応じて行われている様々な工夫を広く共有できるようにすることが必要である。

指導力評価やカリキュラム案等は、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容及び方法に関して国が参考として提供するものであり、各地域ではこれらを参考にして、地域の状況に応じた取組が実施されることが期待される。

国においては、各地域での日本語教育プログラムの実践の状況などを踏まえつつ、適宜、必要に応じて、これら指導力評価やカリキュラム案等の改善を行い、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の更なる充実を図っていくことが求められる。

「指導力評価の手引き」

※ 「指導力評価の手引き」（7ページから66ページ）だけを切り離して使用することを想定しているため、以下10ページから19ページにおいては本資料の1ページから6ページで記載している内容を改めて図等を用いながら分かりやすく説明しています。

「指導力評価の手引き」

目次

「指導力評価の手引き」の構成と内容の概要を示しています。

1. 指導力評価について

(1) 日本語教育委員会における検討経緯について

10～11 ページ

(2) カリキュラム案等の概要について

12～14 ページ

(3) 指導力評価の考え方について

15～19 ページ

2. 日本語指導力ポートフォリオについて

指導力の評価

実践, 研修受講の記録

(1) 指導力評価項目一覧について

・指導力を評価するために必要な項目を一覧にしたもの

20～29 ページ

(2) 指導力評価に関するチェックシートについて

・実践者が、指導力評価項目一覧から、自らの役割として必要な項目を選択し、作成したもの

30～39 ページ

(3) 日本語教育プログラムの実践の記録について

・日本語教育プログラムの実践に当たっての課題、目標、経過、成果及び新たな課題等を記録するもの

40～41 ページ

(4) 研修受講の記録について

・指導力の向上のために受講した研修について記録するもの

42～43 ページ

「指導力評価に関するチェックシート」を作成してファイル

「日本語教育プログラムの実践の記録」を作成してファイル

「研修受講の記録」を作成してファイル

日本語指導力ポートフォリオ

※ (1)～(4)を基に「指導力評価に関するチェックシート」「日本語教育プログラムの実践の記録」「研修受講の記録」を作成し、それをファイルにより蓄積し、指導力向上のための振り返りに活用することを想定しています。(1)～(4)は文化庁ホームページからダウンロードできます。

3. 研修のプログラムの例について

研修のプログラムの例について

・実践者の指導力の向上のための研修を地域において実施するに当たって参考となるような研修のプログラムの例

44～47 ページ

4. 参考

(1) 指導力評価に関するチェックシートのパソコン上での活用方法

48～52 ページ

(2) カリキュラム案で扱う生活上の行為の事例の一覧(多言語版)

53～65 ページ

(3) 日本語教育プログラムの作成手順

66 ページ

1. 指導力評価について

(1) 日本語教育小委員会における検討経緯について

文化審議会国語分科会日本語教育小委員会（以下「日本語教育小委員会」という。）では第8期（平成20年2月から21年2月）において、日本語を母語としない住民に対する施策検討の必要性が高まっていることを踏まえ、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の体制整備及び内容の改善について検討しました。

平成21年1月には「国語分科会日本語教育小委員会における審議について－日本語教育の充実に向けた体制整備と「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容等の検討－」（以下「21年報告」という。）の取りまとめを行いました。

「生活者としての外国人」とは、誰もが持っている「生活」という側面に着目して、我が国において日常的な生活を営む全ての外国人を指すものです。

日本語が主たるコミュニケーション手段となっている我が国において、「生活者としての外国人」には、生活場面と密着したコミュニケーション活動を可能とする能力を獲得することが求められます。

そこで、21年報告では、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標を以下のように整理しています。

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標

目的

言語・文化の相互尊重を前提としながら、「生活者としての外国人」が日本語で意思疎通を図り、生活できるようになること

目標

- 日本語を使って、健康かつ安全に生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、自立した生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、文化的な生活を送ることができるようにすること

また、21年報告では、今後の課題として、標準的なカリキュラム案の開発、参考例としての教材作成、日本語能力及び日本語指導力に関する評価の検討を挙げています。その課題に基づき、まず「生活者としての外国人」が我が国で暮らす上で最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行えるようになり、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標を達成するために必要な日本語教育の内容をカリキュラム案により示しました。また、このカリキュラム案をより有効に活用するために、ガイドブック、教材例集、能力評価を順次計画的に取りまとめてきました。

日本語教育小委員会における検討とその成果物について

①平成22年5月

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について

(以下「カリキュラム案」という。)



②平成23年1月

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案
活用のためのガイドブック

(以下「ガイドブック」という。)



③平成24年1月

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案
教材例集

(以下「教材例集」という。)



④平成24年1月

「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について

(以下「能力評価」という。)

(※上記四つをまとめて、以下「カリキュラム案等」という。)



⑤平成25年2月

「生活者としての外国人」に対する日本語教育における指導力評価について

(以下「指導力評価」という。)

(2) カリキュラム案等の概要について

カリキュラム案等の概要は以下のとおりです。

カリキュラム案等の概要

①カリキュラム案

【内容】

「生活者としての外国人」に対する日本語教育は、対話による相互理解の促進及びコミュニケーション力の向上を図り、「生活者としての外国人」が日本語を用いて社会生活へ参加できるようになることを目指しており、カリキュラム案では「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容を示しています。

各地域においては、地域や外国人の状況等（以下「地域の状況」という。）に応じた日本語教育プログラムを検討及び作成する際に参考とすることを基本としています。

【構成】

生活の基盤を形成する上で必要不可欠であると考えられる生活上の行為の事例、そこで必要となる日本語学習の項目・要素、関連する社会・文化的な情報などから構成しています。

【想定している利用者】

各都道府県、市町村における日本語教育担当者等、各地域において日本語教育のコーディネーター的役割を果たす人に活用されることを想定しています。そのほかにも、各都道府県、市町村において、日本語教育施策や事業の企画を行う人や、教室活動を行う人などに利用されることを想定しています。

②ガイドブック

【内容】

カリキュラム案を基にして、地域の実情や外国人の状況に応じた日本語教育プログラムを編成する際の考え方や作成手順、さらにその中で用いる教室活動の方法を解説しています。

【構成】

カリキュラム案活用の参考として、言語・言語習得の考え方、教室活動の方法、日本語教育プログラムの作成手順と具体例、教室活動の具体的内容から構成しています。

【想定している利用者】

「①カリキュラム案」と同じ。

③教材例集

【内容】

日本語を用いて生活上の行為を行えるようになるための、行動・体験中心の教室活動で用いる教材を例示しています。

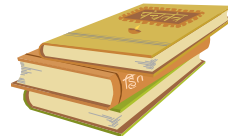
また、各地域における教材例集の活用を促進するため、地域の状況に応じた工夫の仕方を解説しています。

【構成】

カリキュラム案で取り上げている生活上の行為の事例のうち、より必要性が高いと思われる生活上の行為の事例に対する教材例、指導ノートから構成しています。

【想定している利用者】

「①カリキュラム案」と同じ。



④能力評価

【内容】

学習者の日本語能力を把握し、継続的な日本語学習を支援するため、日本語能力を把握する方法と、学習成果を記録し蓄積するファイルである日本語学習ポートフォリオを示しています。

【構成】

カリキュラム案で取り上げている生活上の行為の事例を基にした日本語学習ポートフォリオとそれを活用するための資料として、日本語能力の評価を行うロールプレイタスクの例、カリキュラム案で扱う生活上の行為の一覧から構成しています。

【想定している利用者】

学習者のほか、日本語教育プログラムに役立てたり、必要な支援を知るために指導者や協力者に利用されることを想定しています。

ガイドブックの4ページで、カリキュラム案の活用及び指導方法に関するポイントとして以下の4点を挙げており、これらのポイントについては指導力評価の中でも取り上げているため、転載します。

カリキュラム案の活用及び指導方法に関するポイント

※水色の枠内の（ ）内に示すページ数，行数はカリキュラム案から抜粋した箇所を示します。

地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫

- 適宜修正を加え，各地域の状況や学習者の日本語レベルやニーズに合わせることが必要（6ページ，23行目）
- 各地域において取り上げる生活上の行為の事例を的確に選択し，具体的なプログラムとして配列する必要がある（6ページ，16行目）
- 文字や発音，基礎的な文法事項などは各地域において日本語教育の具体的な内容を検討する際に必要に応じて取り扱うことを想定（5ページ，33行目）
- 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標を達成するためには，学習者は標準的なカリキュラム案で示した生活上の行為の事例を網羅的に行えるようになる必要がある（6ページ，19行目）

専門家・地域住民との協働

- カリキュラム案の「場面」の「相手」で取り上げられている人や，学習者と母語が同じでかつ滞日期間が長く，日本の生活に詳しい人の協力や参加を得ることで，より具体的で効果的な教室活動を展開することができる（8ページ，2行目）
- 地域における日本語教育に精通した専門家の助言を受けることが望ましい（8ページ，22行目）



行動・体験中心の活動

- 生活上の行為を行えるようになるということはその生活上の行為が行われる場面に関係する言語・社会・文化的な知識を使って行動できるようになることである（6ページ，27行目）
- 生活場面と密着したコミュニケーション活動を可能とする能力につながる教室活動を充実すること（7ページ，17行目）
- カリキュラム案で取り上げた学習項目を体験的に学ぶ（7ページ，19行目）

対話による相互理解の促進

- 日本社会における規範の押し付けにならないような配慮が必要。互いの文化の理解が深まるような対話を盛り込んだ教室活動を行う工夫が求められる（6ページ，33行目）
- 日本人側も「生活者としての外国人」が置かれている状況や背景を理解していくことが重要であり，学習者自身が自分の背景や文化を日本人側に提示できるような配慮が必要（7ページ，21行目）
- 文化交流・対話の場を設け，指導者と学習者，学習者同士が互いの社会・文化について学べるように工夫すること（7ページ，23行目）

(3) 指導力評価の考え方について

①指導力評価に関する論点とその検討結果について

日本語教育小委員会では指導力評価について、以下の論点について検討を行いました。

指導力評価の論点とその検討結果

(論点1) 評価の目的

評価の目的については、「生活者としての外国人」に対する日本語教育を行う上で必要な能力一般ではなく、「生活者としての外国人」に対する日本語教育をカリキュラム案等を活用して行う上で必要な能力について評価(活動の振り返りや見直しなどを含む。)することにより、その向上を図り、「生活者としての外国人」のニーズにより一層応えうる日本語教育の実現につなげるものとします。

(論点2) 評価の対象(何を評価するか)

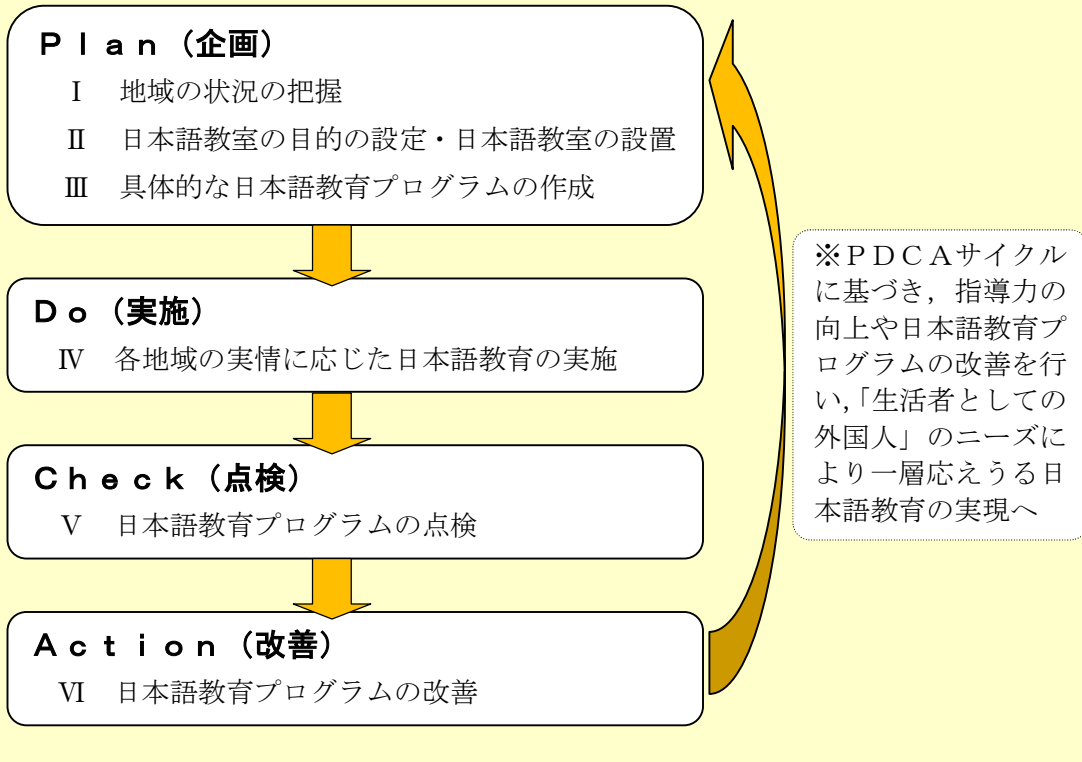
「生活者としての外国人」のニーズにより一層応えるためには、学習者に対する直接的な日本語の指導を行う能力にとどまらず、それを含め、地域の状況に応じた日本語教育プログラムの企画(P l a n)、実施(D o)、点検(C h e c k)、改善(A c t i o n)をPDCAサイクルに基づいて行う能力が求められます。

そのため、評価の対象(何を評価するか)、すなわち指導力評価でいう指導力(以下「指導力」という。)については、論点1の評価の目的を踏まえ、カリキュラム案等を活用して、地域の状況に応じた日本語教育プログラムの実践をPDCAサイクルに基づいて行う能力としました。

なお、PDCAサイクルについては、16ページの「【参考】指導力評価における日本語教育プログラムのPDCAサイクル」も参照してください。

【参考】

指導力評価における日本語教育プログラムのPDCAサイクル



(論点3) 評価対象者 (誰を評価するか)

論点2の検討結果を踏まえて、以下を評価対象者とします。

- (1) 学習者に対する直接的な日本語の指導に携わる者
(以下「地域日本語教育指導者」という。)
 - (2) 行政や地域の関係機関等との連携の下、日本語教育プログラムの実践（直接的な日本語の指導を除く）に携わる者
(以下「地域日本語教育コーディネーター」という。)
- ※ (1) と (2) を合わせて「実践者」といいます。

地域日本語教育指導者と地域日本語教育コーディネーターはいずれも一定の役割を担う者に対する便宜上の名称であり、特定の資格者や勤務形態にある者を指すものではありません。

なお、実践者の勤務形態や活動形態（ボランティアかどうかなど）の違いに基づく評価対象者の細かな設定は行っていません。

(論点4) 評価者 (誰が評価するか)

実践者が自らの指導力について、自己評価を行うことを基本とします。

(論点5) 評価の方法

指導力を評価するために必要な項目を一覧にした指導力評価項目一覧から、実践者が自らの役割として必要な項目を選択して作成するチェックシート (以下「指導力評価に関するチェックシート」という。) を用いて3段階 (「◎ (よくできている)」、 「○ (できている)」、 「△ (できていない)」) で評価を行います。

あわせて、日本語教育プログラムの実践の過程や指導力の向上の変遷や理由などを振り返ることができるよう工夫しています。

なお、指導力評価項目一覧では、それぞれの項目が地域日本語教育指導者、地域日本語教育コーディネーターのどちらを対象としているかを参考として示していますが、実践者は自らの役割として必要な項目を選択して、指導力評価に関するチェックシートを作成してください。

(論点6) 評価で使用する資料

10ページから19ページの「指導力評価について」に加え、①指導力評価項目一覧、②指導力評価に関するチェックシート、③日本語教育プログラムの実践の記録、④研修受講の記録、⑤研修のプログラムの例を作成しています。なお、ここでは①～④を合わせて日本語指導力ポートフォリオといいます。



②日本語指導力ポートフォリオについて

日本語指導力ポートフォリオは、指導力評価項目一覧、指導力評価に関するチェックシート、日本語教育プログラムの実践の記録、研修受講の記録から構成しています。それぞれの内容、活用の仕方、活用により期待されることは以下のとおりです。

なお、指導力評価に関するチェックシート、日本語教育プログラム実践の記録、研修受講の記録は、指導力の向上のためだけでなく、日本語教育に関する経験を示す資料として活用することができます。

日本語指導力ポートフォリオ

1. 指導力評価項目一覧

【内容】

指導力を評価するために必要な項目を一覧にしたものです。企画（Plan）・実施（Do）・点検（Check）・改善（Action）の順に示しています。

【活用の仕方】

指導力評価項目一覧から、実践者が自らの役割に必要な項目を選択し、指導力評価に関するチェックシートを作成した上で、評価結果を記録してください。また、個々の項目に対する評価結果の理由や変遷を記録できるようにコメントを記載する欄を設けています。さらに、評価結果の変遷を継続的に振り返ることができるように、評価結果を記録する欄を3回分、設けています。

なお、指導力評価項目一覧を基にした指導力評価に関するチェックシートの作成及び評価の記録の記載は、本手引きあるいは指導力評価項目一覧をプリントアウトしたものに書き込む方法（21ページ参照）とパソコンによる方法（48ページから52ページ参照）があります。

【活用により期待されること】

指導力評価項目一覧を活用することで、カリキュラム案等を活用して、地域の状況に応じた日本語教育プログラムの実践をPDCAサイクルに基づいて行う際に必要な指導力について検討し、具体的な目標を設定することができます。

実践者間での話し合いを通して、それぞれの実践者が自らの役割として必要な項目を選択することで、役割分担が明確にできます。

2. 指導力評価に関するチェックシート

【内容】

指導力評価に関するチェックシートを作成する方法及び作成例を地域日本語教育指導者について2例、地域日本語教育コーディネーターについて2例、計4例を示しています。

【活用の仕方】

指導力評価項目一覧から指導力評価に関するチェックシートを作成する際及び日本語教室において役割分担について検討する際に参考にしてください。

【活用により期待されること】

指導力評価に関するチェックシートを活用することで、それぞれの実践者の指導力を把握することができます。

3. 日本語教育プログラムの実践の記録

【内容】

日本語教育プログラムの実践に当たっての課題，目標，経過，成果及び新たな課題等を記録するシートです。

【活用の仕方】

日本語教育プログラムの実践の状況について記録をしてください。また，その記録を蓄積，整理し，日本語教育プログラムについて振り返り，その内容を検討する際に活用してください。

【活用により期待されること】

指導力評価に関するチェックシートと照らし合わせることで，

- ①日本語教育プログラムの実践に必要な指導力について具体的に考える
- ②日本語教育プログラムの実践の過程と指導力の向上の変遷を結び付けて考える
- ③日本語教育プログラムの改善のために取り組むべきことと，実践者の個々の指導力の向上のために取り組むべきことを結び付けて考えることができます。

4. 研修受講の記録

【内容】

指導力の向上のために受講した研修について記録するシートです。

【活用の仕方】

指導力の向上のために受講した研修について記録してください。また，その記録を蓄積，整理し，指導力の向上の変遷について振り返る際に活用してください。

【活用により期待されること】

指導力評価に関するチェックシートと照らし合わせることで，指導力の向上に向けて取り組んだことと，指導力の向上の変遷を結び付けて考えることができます。

実践者の間で共有することで，指導力の向上のための効果的な取組を共有することができます。

③研修のプログラムの例

実践者の指導力の向上のために行う研修のプログラムの例を地域日本語教育指導者，地域日本語教育コーディネーターの別に示したものであり，研修の目的，研修の内容及び研修の流れを示しています。

各地域においては，地域の状況を踏まえ，研修のプログラムの例を参考に研修を企画し，実施することが期待されます。

④参考

参考として，指導力評価に関するチェックシートのパソコン上での活用方法，カリキュラム案に掲載している「カリキュラム案で扱う生活上の行為の事例」の多言語版及びガイドブックに掲載している「日本語教育プログラムの作成手順」を掲載しています。

2. 日本語指導力ポートフォリオについて

(1) 指導力評価項目一覧について

指導力評価項目一覧で取り上げている項目は、全部で113項目あります。実践者はそれぞれの地域の日本語教育プログラムの実践の形態や実践者の役割等に合わせて指導力評価項目一覧から自らの役割として必要な項目を選択して、指導力評価に関するチェックシートを作成し、それに基づいて指導力評価を行ってください。また、指導力評価に関するチェックシートは、作成する際に、指導力評価項目一覧から何項目以上選ばなければならないという性格のものではありません。

なお、指導力評価項目一覧では、地域日本語教育指導者を「指導者」、地域日本語教育コーディネーターを「コーディネーター」と略称しています。

指導力評価項目一覧は、指導力評価項目一覧の全体像の把握のための全体版、具体的な項目の確認、指導力評価に関するチェックシートを作成する基として活用するための詳細版の2種類を掲載しています。

指導力評価項目一覧の種類	各欄の内容
全体版 (22ページ～23ページ)	指導力評価項目一覧 【内容】 最も下位のレベルの項目*を除いた項目の一覧
詳細版 (24ページ～29ページ)	指導力評価項目一覧 【内容】 最も下位のレベルの項目を含んだ項目の一覧 対象例 ・ それぞれの項目が指導者、コーディネーターのどちらを対象としているかを「○」印により、参考として分類したもの ・ 指導力評価項目一覧から項目を選択し、指導力評価に関するチェックシートを作成する際に参考として活用 選択項目 ・ それぞれの実践者が自らの役割として必要な項目を選択する際に活用 評価の記録 ・ 指導力評価を行った月日とその評価結果 ・ 評価結果を「◎（よくできている）」、「○（できている）」、「△（できていない）」で記載し、振り返りを行う際に活用

* 最も下位のレベルの項目は、指導力評価項目一覧の中では「J」で示している。

指導力評価項目一覧で「協力者」とは、日本語教室の場所を提供したり、学習者の会話の相手として教室活動に参加したりするなど、日本語教育プログラムの実践に必要な協力を行う者のことをいいます。なお、「協力者」は指導力評価の対象とはしていません。

指導力評価項目一覧（詳細版）による評価の記載例

指導力評価項目一覧を基にした指導力評価に関するチェックシートの作成に関し、本手引きあるいは指導力評価項目一覧をプリントアウトしたものに書き込む方法については、以下のとおりです。
 なお、パソコンによる記載の方法については48ページから52ページを参照してください。

Plan-Do- Check-Actionの別		対象例		評価の記録		
指導力評価項目	②評価を行った日付を記入してください。	指導者	コーディネーター	① 選択項目 4月1日	② 7月1日	③ 月 日
Plan(企画)	①選択する「選択項目」の欄にチェックマーク(「✓」等)を入れてください。			③評価の結果について、記入してください。 ◎…よくできている ○…できている △…できていない		
I 地域や外国人の状況の把握						
1. 地域の外国人の状況の把握						
(1) 地域の外国人の状況や学習者の状況を把握している						
1) 地域の外国人の増減とその理由を把握している	○	○	○	◎	△	△
2) 学習者がこれまでに日本語学習をどの程度行っているか把握している	○	○	○	◎	○	◎
3) 学習者がこれまでに言語学習をどの程度行っているか把握している	○	○	○	○	□	
4) 学習者の年齢、職業、家族形態などを把握している	○	○	○	◎	△	○

①指導力評価項目一覧（全体版）

Plan-Do- Check-Actionの別	
指導力評価項目	
Plan（企画）	
I 地域や外国人の状況の把握	
1. 地域の外国人の状況の把握	(1)地域の外国人の状況や学習者の状況を把握している
	(2)学習者のニーズを把握している
2. 地域のリソース*等の把握	(3)地域のリソース等を把握している
II 日本語教室の目的の設定・日本語教室の設置	
3. 日本語教室の目的の設定	(4)学習者の生活課題の解決に向けた日本語教室の目的を設定している
4. 日本語教室の設置	(5)地域の外国人の状況に応じた日本語教室を設置している
	(6)行政・関係機関との連絡調整を行っている
III 具体的な日本語教育プログラムの作成	
5. 学習内容の検討	(7)学習内容について検討している
6. 学習順序の検討	(8)学習順序について検討している
7. 学習時間の検討	(9)学習時間について検討している
8. 指導者・協力者の検討	(10)指導者・協力者について検討している
9. 教室活動の検討	(11)行動・体験中心の教室活動について検討している
	(12)教材・教具について検討している
	(13)評価について検討している

*「リソース」：指導力評価項目一覧で「リソース」とは、日本語教育プログラムにおいて活用する物的・人的資源のことをいいます。

Plan-Do- Check-Actionの別

指導力評価項目

Do(実施)

IV 各地域の実情に応じた日本語教育の実施

10. 日本語教室の運営

- (14)日本語教室の運営体制が適切である
- (15)教室活動に必要な指導者を育成している
- (16)日本語教室の意義や内容を伝えている
- (17)行政・関係機関との連絡調整を行っている
- (18)教室活動の準備を行っている

11. カリキュラム案の理念に沿った日本語教育の実施

- (19)学習者の状況やニーズを踏まえた教室活動を行っている
- (20)行動・体験中心の教室活動を行っている
- (21)対話による相互理解を促進している
- (22)専門家や地域住民と協働している
- (23)地域・学習者に応じた教材・教具を工夫している

12. 教室活動の記録・振り返り

- (24)教室活動について記録している
- (25)教室活動の記録を共有している
- (26)教室活動の記録を整理している
- (27)教室活動の振り返りをしている

Check(点検)

V 日本語教育プログラムの点検

13. 日本語教育プログラムの状況の分析・課題の把握

- (28)日本語教室の運営について分析し、課題を把握している
- (29)カリキュラム案の理念に沿った日本語教育の実施について分析し、課題を把握している
- (30)教室活動の記録・振り返りについて分析し、課題を把握している
- (31)学習者・指導者・協力者の意見等を調査・分析し、課題を把握している
- (32)分析の結果及び課題をまとめている

Action(改善)

VI 日本語教育プログラムの改善

14. 日本語教育プログラムの改善計画の作成・改善の実施

- (33)日本語教育プログラムの改善計画を検討している
- (34)改善を実施している

②指導力評価項目一覧（詳細版）

Plan-Do- Check-Actionの別		対象例		評価の記録		
指導力評価項目	指導者	コーディネート	選択項目	①	②	③
				月	月	月
Plan(企画)						
I 地域や外国人の状況の把握						
1. 地域の外国人の状況の把握						
(1) 地域の外国人の状況や学習者の状況を把握している						
1) 地域の外国人の増減とその理由を把握している		○	<input type="checkbox"/>			
2) 学習者がこれまでに日本語学習をどの程度行っているか把握している	○	○	<input type="checkbox"/>			
3) 学習者がこれまでに言語学習をどの程度行っているか把握している	○	○	<input type="checkbox"/>			
4) 学習者の年齢、職業、家族形態などを把握している	○	○	<input type="checkbox"/>			
5) 学習者の学習環境（辞書やオーディオ機器・PCなどを所有しているか、日本語学習に協力してくれる人はいるか、どの程度日本語学習に時間を割けるかなど）を把握している	○	○	<input type="checkbox"/>			
6) 学習者の使用言語とその使用場面、日本語でのやり取りが求められる場面を把握している	○	○	<input type="checkbox"/>			
(2) 学習者のニーズを把握している						
7) 学習者が生活面で課題として抱えていることを「今できないと困ること」「今できるようになりたいこと」「今後できるようになりたいこと」「いつかできるようになりたいこと」に分類するなど把握している	○	○	<input type="checkbox"/>			
8) 学習者が求める教室活動の方法や教材などを適切な方法で把握している	○	○	<input type="checkbox"/>			
2. 地域のリソース等の把握						
(3) 地域のリソース等を把握している						
9) 日本語教室に使える場所がどこにあるか把握している		○	<input type="checkbox"/>			
10) 協力してくれる機関がどこにあるか把握している		○	<input type="checkbox"/>			
11) 多言語での情報がどこにあるか把握している		○	<input type="checkbox"/>			
12) 指導者・協力がどこにいるか把握している		○	<input type="checkbox"/>			
13) 通訳がどこにいるか把握している		○	<input type="checkbox"/>			
14) 地域の他の日本語教室の状況を把握している		○	<input type="checkbox"/>			
15) 他の地域の日本語教室の事例を把握している		○	<input type="checkbox"/>			
II 日本語教室の目的の設定・日本語教室の設置						
3. 日本語教室の目的の設定						
(4) 学習者の生活課題の解決に向けた日本語教室の目的を設定している						
16) 地域の外国人の状況を踏まえた上で「具体的な学習者像」を設定し、そこから学習者の生活課題の解決に向けた日本語教室の目的を設定している		○	<input type="checkbox"/>			
17) 学習者の社会参加、エンパワメント* につながる日本語教室の目的を設定している		○	<input type="checkbox"/>			
4. 日本語教室の設置						
(5) 地域の外国人の状況に応じた日本語教室を設置している						
18) 地域の外国人が通いやすい時間と曜日に日本語教室を設置している		○	<input type="checkbox"/>			
19) 地域の外国人や指導者・協力が集まりやすいような場所に日本語教室を設置している		○	<input type="checkbox"/>			
20) 日本語教室の場所では年少者、高齢者等の安全性を考慮している		○	<input type="checkbox"/>			
(6) 行政・関係機関との連絡調整を行っている						
21) 日本語教室の設置に当たって、外国人に関する様々な情報交換を行ったり、地域住民の日本語教室への参加・協力を得たりすることなどのために、行政・関係機関との連絡調整を行っている		○	<input type="checkbox"/>			

*「エンパワメント」：指導力評価項目一覧で「エンパワメント」とは、「生活者としての外国人」が意思疎通の手段を身に付けて、人とつながったり、言葉の壁によって発揮できていなかった自分らしさや力を取り戻したり、発揮出来るようになったりして、その結果として社会の一員として自立し、社会生活のあらゆる領域に参画できるようになることをいいます。

Plan-Do- Check-Actionの別	対象例		評価の記録		
	指導者	コーディネーター	① 月 日	② 月 日	③ 月 日
指導力評価項目					

Plan(企画)

Ⅲ 具体的な日本語教育プログラムの作成

5. 学習内容の検討

(7) 学習内容について検討している

22) 学習者が生活面で課題として抱えていることについて、優先度が高いものを選択している	○	○	□			
23) 22)で選択したものに該当する生活上の行為をカリキュラム案から選択している	○	○	□			
24) 23)で選択した生活上の行為から、より具体的な事例を選択している	○	○	□			
25) 24)で選択した具体的な事例を基に、地域の実情や学習者の日本語のレベルに合わせた学習内容を検討している	○	○	□			
26) 学習者と指導者、協力者が互いの社会、文化について学び合えるような学習内容を検討している	○	○	□			
27) 日本での生活を長期的に見た場合に、今後学習者に必要になりそうな生活上の行為についても考慮している	○	○	□			

6. 学習順序の検討

(8) 学習順序について検討している

28) 学習者が生活面で課題として抱えていることについて、優先度を考慮して学習順序を設定している	○	○	□			
29) 学習期間に区切りを付け、短期的・中期的な目標を立てている	○	○	□			

7. 学習時間の検討

(9) 学習時間について検討している

30) 学習者の日本語の習得の状況を考慮して日本語教育プログラムの総学習時間を設定している	○	○	□			
31) 日本語の習得に時間がかかる学習者への対応を検討している		○	□			

8. 指導者・協力者の検討

(10) 指導者・協力者について検討している

32) 指導者と協力者の役割分担と協力体制を検討している		○	□			
33) 必要な数の指導者と協力者を確保している		○	□			

9. 教室活動の検討

(11) 行動・体験中心の教室活動について検討している

34) 日本語教室の体制や取り扱う生活上の行為に合わせて、行動・体験中心の教室活動を適切に組み合わせて実施するよう検討している	○	○	□			
35) 行動・体験中心の教室活動を行うために、「関係機関の協力を得ることができる」、「実体験を行うことができる」、「協力者の参加が得ることができる」、「視聴覚機器を利用することができる」などの条件を整えている		○	□			
36) 地域や学習者の状況を考慮して教室活動をデザインしている	○	○	□			

(12) 教材・教具について検討している

37) 地域や学習者の状況に合わせて教材例集等を参考に教材・教具を検討している	○	○	□			
38) 地域の公共サービスや行事の案内、その他生活に必要な多言語での情報、地図・ちらし等の素材の活用を検討している	○	○	□			

(13) 評価について検討している

39) 目的に対して適切な日本語教育プログラムを提供できたかどうか評価できるよう検討している		○	□			
40) 日本語教育プログラムが結果として学習者の社会参加、エンパワメントにつながる内容になっているかどうかについて検討している		○	□			

Plan-Do- Check-Actionの別	対象例		評価の記録		
	指導者	コーディネーター	① 月 日	② 月 日	③ 月 日
指導力評価項目					

Do(実施)

IV 各地域の実情に応じた日本語教育の実施

10. 日本語教室の運営

(14) 日本語教室の運営体制が適切である

41) 日本語教室の目的等を実施者の間で共有している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
42) 日本語教室の運営に必要な作業を洗い出し、実情に即した運営体制を作っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
43) 日本語教室に関する学習者の希望や意見を聞いている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
44) 日本語教室の場所や時間、日本語教育プログラムの内容について定期的の実施者の間で検討している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
45) コーディネーター、指導者、協力者の役割がそれぞれの間で理解され、十分にコミュニケーションが取れている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			

(15) 教室活動に必要な指導者を育成している

46) 指導者を育成するための研修を企画・実施している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
47) 外国人の指導者を育成するための研修を企画・実施している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
48) 外部で行われている講座やセミナーの情報を集め、指導者に紹介している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			

(16) 日本語教室の意義や内容を伝えている

49) 地域住民の日本語教育への理解を得るため、日本語教室の意義や内容を広く社会一般に伝えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
50) 日本語教室の意義や内容が学習者に届きやすいように、周知の方法を工夫している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			

(17) 行政・関係機関との連絡調整を行っている

51) 日本語教室の運営に当たって、外国人に関する様々な情報交換を行ったり、地域住民の日本語教室への参加・協力を得たりすることなどのために、行政・関係機関と連絡調整を行っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
52) 学習者が日本語教室以外の他の組織・コミュニティ（自治会など）にも参加できるように案内をするなどの工夫をしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
53) 学習者の生活課題の状況に応じて学習者を必要な行政の相談窓口等につないでいる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			

(18) 教室活動の準備を行っている

54) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的と目標を十分に理解している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
55) 教室活動において使用する教材・教具を準備している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
56) これまでの教室活動の内容を踏まえて毎回の教室活動の内容を設定している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
57) 教室活動の内容や時間配分、予定通りにいかなかったときの代案を考えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
58) 学習に市販の教材を使用する際には、著作物の取扱いを法律に沿って行っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			

11. カリキュラム案の理念に沿った日本語教育の実施

(19) 学習者の状況やニーズを踏まえた教室活動を行っている

59) 学習者が社会の一員として自立した生活を送ることができることを目指した教室活動を行っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
60) 学習者の生活課題の優先度が高い生活上の行為を取り上げ、教室活動を行っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
61) 学習者の状況や日本語のレベル、ニーズ、学習スタイルを考慮して教室活動を行っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
62) 教室活動を通して学習者の状況や日本語のレベル、ニーズを把握している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
63) 学習者に教室活動の目的を伝えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
64) 学習者から学習に関する相談を受ける仕組みを作っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			

Plan-Do- Check-Actionの別	対象例		評価の記録		
	指導者	コーディネーター	① 月 日	② 月 日	③ 月 日
指導力評価項目					

Do(実施)

IV 各地域の実情に応じた日本語教育の実施

11. カリキュラム案の理念に沿った日本語教育の実施

(20) 行動・体験中心の教室活動を行っている

65) 学習者の生活場面に密着したコミュニケーション活動等、行動・体験中心の教室活動を行っている	○	○	□			
66) 行動・体験中心の教室活動を行う際に、実物・イラスト・写真を活用するなどの工夫をしている	○	○	□			
67) 行動・体験中心の教室活動を行う際に、協力者を教室に招くなどの工夫をしている	○	○	□			
68) 行動・体験中心の教室活動を行う際に、外に出て直接行動・体験するなどの工夫をしている	○	○	□			
69) 学習者が日本語を使って生活できるようになるだけでなく、更に地域住民等との人間関係が広がっていくように工夫している	○	○	□			
70) 学習者が課題の達成を実感したり、達成できなかった場合の原因を理解したりできるように工夫している	○	○	□			

(21) 対話による相互理解を促進している

71) 学習者、指導者、協力者が互いの社会、文化について学び合えるような教室活動を行っている	○	○	□			
72) 学習者同士が互いの社会、文化について学び合えるような教室活動を行っている	○	○	□			
73) 生活上の行為を取り上げ、日本の社会習慣やルールを説明する際、学習者に対する規範の押し付けとならないよう考慮している	○	○	□			
74) 一方的に説明せず、学習者にとって話しやすい雰囲気を作っている	○	○	□			
75) 学習者の日本語のレベルに合わせて、適切な話題を提供している	○	○	□			
76) 対話による教室活動が円滑に進まないとき、やさしい言葉で言い換えるなど、対話を促進するための支援を工夫している	○	○	□			

(22) 専門家や地域住民と協働している

77) 教室活動に必要な情報や不明なことは、自ら調べたり、その分野に詳しい専門家の協力を得て解決を図っている	○	○	□			
78) 地域住民や日本での生活年数が長い外国人住民の協力や参加を得て、教室活動を行っている		○	□			

(23) 地域・学習者に応じた教材・教具を工夫している

79) 学習者の状況に合わせて教材例集等を参考に教材・教具を工夫している	○	○	□			
80) 地域の公共サービスや行事の案内、その他生活に必要な多言語での情報、地図・ちらし等の素材を活用している	○	○	□			

12. 教室活動の記録・振り返り

(24) 教室活動について記録している

81) 教室活動の内容を記録している	○	○	□			
82) 教室活動における学習者の様子を記録している	○	○	□			
83) 教室活動の成果と課題を記録している	○	○	□			
84) 学習者のプライバシーに配慮している	○	○	□			

Plan-Do- Check-Actionの別	対象例		評価の記録		
	指導者	コーディネーター	① 月 日	② 月 日	③ 月 日
指導力評価項目					

Do(実施)

IV 各地域の実情に応じた日本語教育の実施

12. 教室活動の記録・振り返り

(25) 教室活動の記録を共有している

85) 教室活動の内容・学習者の様子・活動の成果・課題を関係者間で共有している

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
-----------------------	-----------------------	--------------------------	--	--	--

(26) 教室活動の記録を整理している

86) 教室活動の記録を分類して管理している

	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
--	-----------------------	--------------------------	--	--	--

87) 教室活動の記録を一括管理している

	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
--	-----------------------	--------------------------	--	--	--

(27) 教室活動の振り返りをしている

88) 学習者が日本語学習ポートフォリオ（日本語能力評価）の「学習の記録」や「能力記述の一覧」等を参考にして、毎回の教室活動の振り返りができるように支援している

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
-----------------------	-----------------------	--------------------------	--	--	--

89) 日本語指導力ポートフォリオの「指導力評価に関するチェックシート」等を参考にして、自ら教室活動を振り返っている

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
-----------------------	-----------------------	--------------------------	--	--	--

Check(点検)

V 日本語教育プログラムの点検

13. 日本語教育プログラムの状況の分析・課題の把握

(28) 日本語教室の運営について分析し、課題を把握している

90) 日本語教室の運営体制が適切であったかどうか分析し、課題を把握している

	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
--	-----------------------	--------------------------	--	--	--

91) 日本語教室に必要な指導者の育成が適切であったかどうか分析し、課題を把握している

	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
--	-----------------------	--------------------------	--	--	--

92) 日本語教室の意義や内容の発信が適切であったかどうか分析し、課題を把握している

	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
--	-----------------------	--------------------------	--	--	--

93) 行政・関係機関との連絡調整が適切であったかどうか分析し、課題を把握している

	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
--	-----------------------	--------------------------	--	--	--

94) 教室活動の準備が適切であったかどうか分析し、課題を把握している

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
-----------------------	-----------------------	--------------------------	--	--	--

95) 日本語教育プログラムが計画どおりに実施できたこと、できなかったことを分析し、課題を把握している

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
-----------------------	-----------------------	--------------------------	--	--	--

(29) カリキュラム案の理念に沿った日本語教育の実施について分析し、課題を把握している

96) 学習者の状況やニーズを踏まえた教室活動が適切であったかどうか分析し、課題を把握している

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
-----------------------	-----------------------	--------------------------	--	--	--

97) 行動・体験中心の教室活動が適切であったかどうか分析し、課題を把握している

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
-----------------------	-----------------------	--------------------------	--	--	--

98) 対話による相互理解の促進が適切であったかどうか分析し、課題を把握している

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
-----------------------	-----------------------	--------------------------	--	--	--

99) 専門家や地域住民との協働が適切であったかどうか分析し、課題を把握している

	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
--	-----------------------	--------------------------	--	--	--

100) 地域・学習者に応じた教材・教具の工夫が適切であったかどうか分析し、課題を把握している

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
-----------------------	-----------------------	--------------------------	--	--	--

(30) 教室活動の記録・振り返りについて分析し、課題を把握している

101) 教室活動の記録が適切であったかどうか分析し、課題を把握している

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
-----------------------	-----------------------	--------------------------	--	--	--

102) 教室活動の記録の共有が適切であったかどうか分析し、課題を把握している

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
-----------------------	-----------------------	--------------------------	--	--	--

103) 教室活動の記録の整理が適切であったかどうか分析し、課題を把握している

	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
--	-----------------------	--------------------------	--	--	--

104) 教室活動の振り返りが適切であったかどうか分析し、課題を把握している

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
-----------------------	-----------------------	--------------------------	--	--	--

(31) 学習者・指導者・協力者の意見等を調査・分析し、課題を把握している

105) 学習者・指導者・協力者の意見や満足度を調査・分析し、課題を把握している

	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
--	-----------------------	--------------------------	--	--	--

Plan-Do- Check-Actionの別 指導力評価項目	対象例		評価の記録		
	指導者	コーディネーター	選択項目	① 月 日	② 月 日

Check(点検)

V 日本語教育プログラムの点検

13. 日本語教育プログラムの状況の分析・課題の把握

(32) 分析の結果及び課題をまとめている

106) (28)～(32)の分析の結果及び課題を、数字やグラフ等を利用して第三者にも伝えられるよう分かりやすくまとめている

Action(改善)

VI 日本語教育プログラムの改善

14. 日本語教育プログラムの改善計画の作成・改善の実施

(33) 日本語教育プログラムの改善計画を検討している

107) 日本語教育プログラムの改善計画を検討する機会を設けている

108) 実施した日本語教育プログラムの課題について解決策を複数検討している

109) 日本語教育プログラムの改善計画に学習者の意見を反映している

110) 他の日本語教室の事例や、自らのこれまでの取組を参考にして日本語教育プログラムの改善計画を検討している

111) 日本語教育プログラムの改善計画において改善のための今後の具体的な内容・スケジュール・役割分担を明確にしている

(34) 改善を実施している

112) 日本語教育プログラムの改善計画に基づき、改善を実施している

113) 日本語教育プログラムの改善計画の実施状況を記録している



(2) 指導力評価に関するチェックシートについて

指導力評価に関するチェックシートは、指導力評価項目一覧から、自らの役割として必要な項目を選択して作成します。それぞれの実践者に必要な項目は、個人個人の経験や課題の段階によって異なります。自分の指導力評価に関するチェックシートを作成した上で、評価の記録を行ってください。

なお、指導力評価に関するチェックシートの作成及び評価の記録の記載は、本手引きあるいは指導力評価項目一覧をプリントアウトしたものに書き込む方法（21ページ参照）とパソコンによる方法（48ページから52ページ参照）があります。

指導力評価に関するチェックシートを作成するポイント

ポイント①

- ・ 指導力評価に関するチェックシートは指導力評価項目一覧から作成します。
- ・ 指導力評価項目一覧では、その項目を日本語教育プログラムの企画、実施、点検、改善の順に並べています。まずは、それぞれの過程において、どういう項目が並んでいるか、全体の流れを見てみてください。全体の流れを把握する場合は「指導力評価項目一覧（全体版）」が便利です。

ポイント②

- ・ 「指導力評価項目一覧（全体版）」でおおよその目安を付けた上で、今の日本語教室において自らの役割として必要な項目を選択してください。また、自分にとって課題だと感じることに係る項目を「指導力評価項目一覧（詳細版）」から選択すると、課題の克服と指導力評価を結び付けやすくなります。
- ・ また、項目の選択は、ほかの実践者と「今の日本語教室の課題」や「個々の実践者の課題」などをテーマに話し合いをしながら進めることによって、実践者の間で共通認識が生まれ、役割分担などもスムーズに行えます。

ポイント③

- ・ 指導力評価項目一覧には指導力評価項目が全部で113ありますが、課題がはっきりしている場合は、次のような選び方を参考にしてください。
 - ① 日本語教室の新規立ち上げに関する指導力の向上を行いたい場合
⇒ **Plan**から重点的に選択
 - ② 教室活動の方法に関する指導力の向上を行いたい場合
⇒ **Do**から重点的に選択
 - ③ 既存の日本語教育プログラムの見直し、改善に関する指導力の向上を行いたい場合
⇒ **Check**, **Action**から重点的に選択

①指導力評価に関するチェックシートの例について

31ページから39ページでは、指導力評価に関するチェックシートを作成するポイントを踏まえ、指導力評価に関するチェックシートの例を示します。例は、地域日本語教育指導者について2例、地域日本語教育コーディネーターについて2例の計4例です。

4人の実践者がそれぞれの経験、教室での役割、現在の課題からどのように項目を選択し、作成したか、またどのように評価に取り組もうと考えているかを見て、指導力評価に関するチェックシートを作成する際の参考にしてください。

なお、32ページから39ページに示す指導力評価に関するチェックシートの例では、指導力評価に関するチェックシートを「チェックシート」、地域日本語教育指導者を「指導者」、地域日本語教育コーディネーターを「コーディネーター」と略称しています。

また、指導力評価に関するチェックシートの例でそれぞれの項目に付している数字は、指導力評価項目一覧の数字と対応しています。

指導力評価に関するチェックシートの例

地域日本語教育指導者

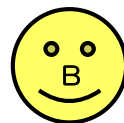
チェックシートの例1 指導内容、方法、教材・教具の準備に関する項目

- ・地域日本語教育指導者として活動を始めて3か月のAさん
(評価項目：企画 (P l a n)・実施 (D o) から選択 (20項目))



チェックシートの例2 教室活動全般に関する項目

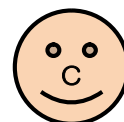
- ・地域日本語教育指導者として活動を始めて3年のBさん
(評価項目：企画 (P l a n)・実施 (D o) から選択 (31項目))



地域日本語教育コーディネーター

チェックシートの例3 教室の新規立ち上げに関する項目

- ・地域日本語教育コーディネーターとして活動を始めて3か月のCさん
(評価項目：企画 (P l a n) から選択 (40項目))



チェックシートの例4 既存の日本語教育プログラムに関する項目

- ・地域日本語教育コーディネーターとして活動を始めて3年のDさん
(評価項目：点検 (C h e c k)・改善 (A c t i o n) から選択 (24項目))



②チェックシートの例

チェックシートの例1 指導内容、方法、教材・教具の準備に関する項目

指導者Aさん
(経験3か月)



経験：指導者として活動を始めて3か月です。

教室での役割：1週間に1回、1時間半、主婦の方に教えています。毎回のテーマや目標は、コーディネーターが事前に学習者と相談して設定してくれていますが、教材は自分で考えて準備しています。

現在の課題：学習者との関わり方や指導内容、方法、教材・教具の準備が、今のままでよいのかどうか不安です。どういうことを意識して取り組めばいいか、悩むことが多いです。

Plan-Do- Check-Actionの別		対象	評価の記録		
指導力評価項目	指導者	選択項目	①	②	③
			月	月	月
			日	日	日
Plan(企画)					
I 地域や外国人の状況の把握					
1. 地域の外国人の状況の把握					
(2) 学習者のニーズを把握している					
8)	学習者が求める教室活動の方法や教材などを適切な方法で把握している	○	□		
III 具体的な日本語教育プログラムの作成					
5. 学習内容の検討					
(7) 学習内容について検討している					
24)	23)で選択した生活上の行為から、より具体的な事例を選択している	○	□		
25)	24)で選択した具体的な事例を基に地域の実情や学習者の日本語のレベルに合わせた学習内容を検討している	○	□		
26)	学習者と指導者、協力者が互いの社会、文化について学び合えるような学習内容を検討している	○	□		
Do(実施)					
IV 各地域の実情に応じた日本語教育の実施					
10. 日本語教室の運営					
(14) 日本語教室の運営体制が適切である					
43)	日本語教室に関する学習者の希望や意見を聞いている	○	□		
(18) 教室活動の準備を行っている					
54)	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的と目標を十分に理解している	○	□		
55)	教室活動において使用する教材・教具を準備している	○	□		
11. カリキュラム案の理念に沿った日本語教育の実施					
(19) 学習者の状況やニーズを踏まえた教室活動を行っている					
59)	学習者が社会の一員として自立した生活を送ることができることを目指した教室活動を行っている	○	□		
61)	学習者の状況や日本語のレベル、ニーズ、学習スタイルを考慮して教室活動を行っている	○	□		

Plan-Do- Check-Actionの別	対象	評価の記録			
		①	②	③	
指導力評価項目	指導者	選択項目	月	月	月
			日	日	日

Do(実施)

IV 各地域の実情に応じた日本語教育の実施

11. カリキュラム案の理念に沿った日本語教育の実施

(20) 行動・体験中心の教室活動を行っている

- | | | | | | | |
|-----|--|-----------------------|--------------------------|--|--|--|
| 65) | 学習者の生活場面に密着したコミュニケーション活動等，行動・体験中心の教室活動を行っている | <input type="radio"/> | <input type="checkbox"/> | | | |
| 66) | 行動・体験中心の教室活動を行う際に，実物・イラスト・写真を活用するなど工夫している | <input type="radio"/> | <input type="checkbox"/> | | | |

(21) 対話による相互理解を促進している

- | | | | | | | |
|-----|--|-----------------------|--------------------------|--|--|--|
| 74) | 一方的に説明せず，学習者が話しやすい雰囲気を作っている | <input type="radio"/> | <input type="checkbox"/> | | | |
| 75) | 適切な話題を学習者の日本語のレベルに合わせて提供している | <input type="radio"/> | <input type="checkbox"/> | | | |
| 76) | 対話による教室活動が円滑に進まないとき，やさしい言葉で言い換えるなど，対話を促進するための支援を工夫している | <input type="radio"/> | <input type="checkbox"/> | | | |

(23) 地域・学習者に応じた教材・教具を工夫している

- | | | | | | | |
|-----|--|-----------------------|--------------------------|--|--|--|
| 79) | 学習者の状況に合わせて教材例集等を参考に教材・教具を工夫している | <input type="radio"/> | <input type="checkbox"/> | | | |
| 80) | 地域の公共サービスや行事の案内，その他生活に必要な多言語での情報，地図・ちらし等の素材を活用している | <input type="radio"/> | <input type="checkbox"/> | | | |

12. 教室活動の記録・振り返り

(24) 教室活動について記録している

- | | | | | | | |
|-----|-----------------------|-----------------------|--------------------------|--|--|--|
| 81) | 教室活動の内容を記録している | <input type="radio"/> | <input type="checkbox"/> | | | |
| 82) | 教室活動における学習者の様子を記録している | <input type="radio"/> | <input type="checkbox"/> | | | |

(25) 教室活動の記録を共有している

- | | | | | | | |
|-----|-------------------------------------|-----------------------|--------------------------|--|--|--|
| 85) | 教室活動の内容・学習者の様子・活動の成果・課題を関係者間で共有している | <input type="radio"/> | <input type="checkbox"/> | | | |
|-----|-------------------------------------|-----------------------|--------------------------|--|--|--|

(27) 教室活動の振り返りをしている

- | | | | | | | |
|-----|--|-----------------------|--------------------------|--|--|--|
| 89) | 日本語指導力ポートフォリオの「指導力評価に関するチェックシート」等を参考に，自ら教室活動を振り返っている | <input type="radio"/> | <input type="checkbox"/> | | | |
|-----|--|-----------------------|--------------------------|--|--|--|

まず，指導力評価項目一覧の「Plan」の学習者のニーズと学習内容に関する項目と「Do」の教室活動の準備と活動の内容，方法，教材・教具に関する項目を見て，そこから，私が取り組みそうなものを20項目選択しました。項目を選ぶときには，教室のコーディネーターに相談しながら作りました。

まずは，1か月に1回，このチェックシートの内容を自分で点検することから始めてみようと思います。その中で課題が見つかったら，課題に対する研修についてコーディネーターに相談しようと思っています。



チェックシートの例2 教室活動全般に関する項目

指導者Bさん
(経験3年)



経験：指導者として活動を始めて3年です。
 教室での役割：1週間に2日、1回1時間半、5名の学習者に日本語を教えています。
 学習内容や進度も含めて、日本語の指導を任されています。
 現在の課題：日本語の指導方法について、特に不安はありませんが、ふと、今のままのやり方でいいのかなと思うことがあります。教室活動全般について見直しをして、改善していくきっかけになればと思っています。
 それから、学習者が日本語教室以外では日本人との交流があまりないことも、何とかできないものかと思っているのですが…。

Plan-Do- Check-Actionの別	対象	評価の記録			
		①	②	③	
指導力評価項目	指導者	選択項目	月	月	月
			日	日	日
Plan(企画)					
I 地域や外国人の状況の把握					
1. 地域の外国人の状況の把握					
(2)学習者のニーズを把握している					
学習者が生活面で課題として抱えていることを「今できないと困ること」「今できる7) ようになりたいこと」「今後できるようになりたいこと」「いつかできるようになりたいこと」に分類するなどし把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
8) 学習者が求める教室活動の方法や教材などを適切な方法で把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
III 具体的な日本語教育プログラムの作成					
5. 学習内容の検討					
(7)学習内容について検討している					
22) 学習者が生活面で課題として抱えていることについて、優先度が高いものを選択している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
23) 22)で選択したものに該当する生活上の行為をカリキュラム案から選択している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
24) 23)で選択した生活上の行為から、より具体的な事例を選択している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
25) 24)で選択した具体的な事例を基に地域の実情や学習者の日本語のレベルに合わせた学習内容を検討している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
26) 学習者と指導者、協力者が互いの社会、文化について学び合えるような学習内容を検討している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
27) 日本での生活を長期的に見た場合に今後学習者に必要になりそうな生活上の行為についても考慮している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
6. 学習順序の検討					
(8)学習順序について検討している					
28) 学習者の生活課題の優先度を考慮して学習順序を設定している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
29) 学習期間に区切りを付け、短期的・中期的な目標を立てている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
7. 学習時間の検討					
(9)学習時間について検討している					
30) 学習者の日本語の習得の状況を考慮して日本語教育プログラムの総学習時間を設定している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			

Plan-Do- Check-Actionの別	対象	評価の記録			
		①	②	③	
指導力評価項目	指導者	選択項目	月	月	月
			日	日	日

Do(実施)

IV 各地域の実情に応じた日本語教育の実施

10. 日本語教室の運営

(14) 日本語教室の運営体制が適切である

44) 日本語教室の場所や時間, 日本語教育プログラムの内容について定期的に実施者の間で検討している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
45) コーディネーター, 指導者, 協力者の役割がそれぞれの間で理解され, 十分にコミュニケーションが取れている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			

11. カリキュラム案の理念に沿った日本語教育の実施

(19) 学習者の状況やニーズを踏まえた教室活動を行っている

59) 学習者が社会の一員として自立した生活を送ることができることを目指した教室活動を行っている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
61) 学習者の状況や日本語のレベル, ニーズ, 学習スタイルを考慮して教室活動を行っている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
63) 学習者に教室活動の目的を伝えている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
64) 学習者から学習に関する相談を受ける仕組みを作っている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			

(20) 行動・体験中心の教室活動を行っている

65) 学習者の生活場面に密着したコミュニケーション活動等, 行動・体験中心の教室活動を行っている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
67) 行動・体験中心の教室活動を行う際に, 協力者を教室に招くなど工夫している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
68) 行動・体験中心の教室活動を行う際に, 外に出て直接行動・体験するなど工夫している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
69) 学習者が日本語を使って生活できるようになるだけでなく, 更に地域住民等との人間関係が広がっていくように工夫している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
70) 学習者が課題の達成を実感したり, 達成できなかった場合の原因を理解したりできるように工夫している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			

(21) 対話による相互理解を促進している

71) 学習者, 指導者, 協力者が互いの社会, 文化について学び合えるような教室活動を行っている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
72) 学習者同士が互いの社会, 文化について学び合えるような教室活動を行っている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
73) 生活上の行為を取り上げ, 日本の社会習慣やルールを説明する際, 学習者に対する規範の押し付けとならないよう考慮している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			

(23) 地域・学習者に応じた教材・教具を工夫している

80) 地域の公共サービスや行事の案内, その他生活に必要な多言語での情報, 地図・ちらし等の素材を活用している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
--	-----------------------	--------------------------	--	--	--

12. 教室活動の記録・振り返り

(24) 教室活動について記録している

83) 教室活動の成果と課題を記録している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
84) 学習者のプライバシーに配慮している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			

(25) 教室活動の記録を共有している

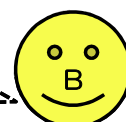
85) 教室活動の内容・学習者の様子・活動の成果・課題を関係者間で共有している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
---	-----------------------	--------------------------	--	--	--

(27) 教室活動の振り返りをしている

88) 学習者が日本語学習ポートフォリオ(日本語能力評価)の「学習の記録」や「能力記述の一覧」等を参考にして, 毎回の教室活動の振り返りができるよう支援している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
89) 日本語指導力ポートフォリオの「指導力評価に関するチェックシート」等を参考にして, 自ら教室活動を振り返っている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			

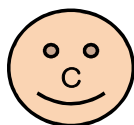
指導力評価項目一覧の「Plan」と「Do」から, 今の教室運営や教室活動の課題じゃないかなと思う項目を選んでみました。これまでいつも確認している項目は選ばずに, 今まであまり意識していなかった項目を選ぶようにしました。

日本語教室は1つのコースが3か月間なので, コースが終わるときに, 自己評価をしてみても, さらに仲間にも手伝ってもらって他者評価もやってみようと思います。



チェックシートの例3 教室の新規立ち上げに関する項目

コーディネーター
Cさん
(経験3か月)



経験：コーディネーターとして活動を始めて3か月です。
日本語を教えた経験があります。

教室での役割：地域に暮らす外国人住民の方を対象にした日本語教室を新しく立ち上げることになりました。
教室の運営体制や学習内容を含め、日本語教育プログラムを作成しなければなりません。

現在の課題：教室を立ち上げるために、何について検討し、どのような準備をすればよいか、よく分からなくて不安です。
一応、自分なりにプランを考えてみたのですが…。

Plan-Do-Check-Actionの別	対象	評価の記録			
		①	②	③	
指導力評価項目	コーディネーター	選択項目	月	月	月
			日	日	日

Plan(企画)

I 地域や外国人の状況の把握

1. 地域の外国人の状況の把握

(1) 地域の外国人の状況や学習者の状況を把握している

1) 地域の外国人の増減とその理由を把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		
2) 学習者がこれまでに日本語学習をどの程度行っているか把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		
3) 学習者がこれまでに言語学習をどの程度行っているか把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		
4) 学習者の年齢、職業、家族形態などを把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		
5) 学習者の学習環境(辞書やオーディオ機器・PCなどを所有しているか、日本語学習に協力してくれる人はいるか、どの程度日本語学習に時間を割けるかなど)を把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		
6) 学習者の使用言語とその使用場面、日本語でのやり取りが求められる場面を把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		

(2) 学習者のニーズを把握している

7) 学習者が生活面で課題として抱えていることを「今できないと困ること」「今できるようにになりたいこと」「今後できるようにになりたいこと」「いつかできるようにになりたいこと」に分類するなど把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		
8) 学習者が求める教室活動の方法や教材などを適切な方法で把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		

2. 地域のリソース等の把握

(3) 地域のリソース等を把握している

9) 日本語教室に使える場所がどこにあるか把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		
10) 協力してくれる機関がどこにあるか把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		
11) 多言語での情報がどこにあるか把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		
12) 指導者・協力がどこにいるか把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		
13) 通訳がどこにいるか把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		
14) 地域の他の日本語教室の状況を把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		
15) 他の地域の日本語教室の事例を把握している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		

II 日本語教室の目的の設定・日本語教室の設置

3. 日本語教室の目的の設定

(4) 学習者の生活課題の解決に向けた日本語教室の目的を設定している

16) 地域の外国人の状況を踏まえた上で「具体的な学習者像」を設定し、そこから学習者の生活課題の解決に向けた日本語教室の目的を設定している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		
17) 学習者の社会参加、エンパワメントにつながる日本語教室の目的を設定している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		

4. 日本語教室の設置

(5) 地域の外国人の状況に応じた日本語教室を設置している

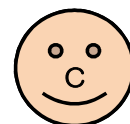
18) 地域の外国人が通いやすい時間と曜日に日本語教室を設置している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		
19) 地域の外国人や指導者・協力が集まりやすいような場所に日本語教室を設置している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		
20) 教室活動の場所では年少者、高齢者等の安全性を考慮している	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		

Plan-Do- Check-Actionの別		対象	評価の記録			
指導力評価項目		コーディネーター	選択項目	①	②	③
				月	月	月
			日	日	日	
(6) 行政・関係機関との連絡調整を行っている						
21) 日本語教室の設置に当たって、外国人に関する様々な情報交換を行ったり、地域住民の日本語教室への参加・協力を得たりすることなどのために、行政・関係機関との連絡調整を行っている		○	□			
Ⅲ 具体的な日本語教育プログラムの作成						
5. 学習内容の検討						
(7) 学習内容について検討している						
22) 学習者が生活面で課題として抱えていることについて、優先度が高いものを選択している		○	□			
23) 22)で選択したものに該当する生活上の行為をカリキュラム案から選択している		○	□			
24) 23)で選択した生活上の行為から、より具体的な事例を選択している		○	□			
25) 24)で選択した具体的な事例を基に地域の実情や学習者の日本語のレベルに合わせた学習内容を検討している		○	□			
26) 学習者と指導者、協力者が互いの社会、文化について学び合えるような学習内容を検討している		○	□			
27) 日本での生活を長期的に見た場合に今後学習者に必要になりそうな生活上の行為についても考慮している		○	□			
6. 学習順序の検討						
(8) 学習順序について検討している						
28) 学習者の生活課題の優先度を考慮して学習順序を設定している		○	□			
29) 学習期間に区切りを付け、短期的・中期的な目標を立てている		○	□			
7. 学習時間の検討						
(9) 学習時間について検討している						
30) 学習者の日本語の習得の状況を考慮して日本語教育プログラムの総学習時間を設定している		○	□			
31) 日本語の習得に時間がかかる学習者への対応を検討している		○	□			
8. 指導者・協力者の検討						
(10) 指導者・協力者について検討している						
32) 指導者と協力者の役割分担と協力体制を検討している		○	□			
33) 必要な数の指導者と協力者を確保している		○	□			
9. 教室活動の検討						
(11) 行動・体験中心の教室活動について検討している						
34) 日本語教室の体制や取り扱う生活上の行為に合わせて行動・体験中心の教室活動を適切に組み合わせて実施するよう検討している		○	□			
35) 「実体験を行うことができる」、「協力者の参加が得られる」、「視聴覚機器が利用できる」などの条件を整えている		○	□			
36) 学習者の状況を考慮して教室活動をデザインしている		○	□			
(12) 教材・教具について検討している						
37) 地域や学習者の状況に合わせて教材例集等を参考に教材・教具を検討している		○	□			
38) 地域の公共サービスや行事の案内、その他生活に必要な多言語での情報、地図・ちらし等の素材の活用を検討している		○	□			
(13) 評価について検討している						
39) 目標に対して適切な日本語教育プログラムを提供できたかどうか評価できるよう検討している		○	□			
40) 日本語教育プログラムが結果として学習者の社会参加、エンパワメントにつながる内容になっているかどうかについて検討している		○	□			

指導力評価項目一覧の「Plan」から、日本語教室を立ち上げるときに必要ななど思った項目をまんべんなく選んでみました。全部で40項目です。

実際に教室を立ち上げるまでは、このチェックシートで確認をして、その後、計画が具体的になってきたら、今後は「Do」からも項目を選んでみようと思います。

項目の選択については、日本語教育を専門としている大学の先生にも相談することも考えています。



チェックシートの例4 既存の日本語教育プログラムに関する項目

コーディネーター
Dさん
(経験3年)



経験：コーディネーターとして教室を立ち上げて3年です。
 少しですが、日本語を教えた経験があります。
 教室での役割：日本語教室を運営する立場にいます。授業計画の作成、指導者の育成、
 学習者からの相談などにも対応しています。
 現在の課題：日本語教室の運営について、何か大きな問題があるわけではないです
 が、これまで無我夢中でやってきたので、周辺の日本語教室や、他の
 地域にも目を向けたりして、自分たちの日本語教室の運営方法が今の
 ままでよいのかどうか、一度振り返って確認する必要があるのではな
 いかと思っています。

Plan-Do- Check-Actionの別	対象	評価の記録			
		①	②	③	
指導力評価項目	コーディネーター	選択項目	月	月	月
			日	日	日

Check(点検)

V 日本語教育プログラムの点検

13. 日本語教育プログラムの状況の分析・課題の把握

(28) 日本語教室の運営について分析し、課題を把握している

90) 日本語教室の運営体制が適切であったかどうか分析し、課題を把握している	○	□			
91) 日本語教室に必要な指導者の育成が適切であったかどうか分析し、課題を把握している	○	□			
92) 日本語教室の意義や内容の発信が適切であったかどうか分析し、課題を把握している	○	□			
93) 行政・関係機関との連絡調整が適切であったかどうか分析し、課題を把握している	○	□			
94) 教室活動の準備が適切であったかどうか分析し、課題を把握している	○	□			
95) 日本語教育プログラムが計画どおりに実施できたこと、できなかったことを分析し、課題を把握している	○	□			

(29) カリキュラム案の理念に沿った日本語教育の実施について分析し、課題を把握している

96) 学習者の状況やニーズを踏まえた教室活動が適切であったかどうか分析し、課題を把握している	○	□			
97) 行動・体験中心の教室活動が適切であったかどうか分析し、課題を把握している	○	□			
98) 対話による相互理解の促進が適切であったかどうか分析し、課題を把握している	○	□			
99) 専門家や地域住民との協働が適切であったかどうか分析し、課題を把握している	○	□			
100) 地域・学習者に応じた教材・教具の工夫が適切であったかどうか分析し、課題を把握している	○	□			

(30) 教室活動の記録・振り返りについて分析し、課題を把握している

101) 教室活動の記録が適切であったかどうか分析し、課題を把握している	○	□			
102) 教室活動の記録の共有が適切であったかどうか分析し、課題を把握している	○	□			
103) 教室活動の記録の整理が適切であったかどうか分析し、課題を把握している	○	□			
104) 教室活動の振り返りが適切であったかどうか分析し、課題を把握している	○	□			

(31) 学習者・指導者・協力者の意見等を調査・分析し、課題を把握している

105) 学習者・指導者・協力者の意見や満足度を調査・分析し、課題を把握している	○	□			
--	---	---	--	--	--

Plan-Do- Check-Actionの別		対象	評価の記録			
指導力評価項目		コーディネーター	選択項目	①	②	③
			月	月	月	
日						
(32)分析の結果及び課題をまとめている						
106)	(28)～(32)の分析の結果及び課題を、数字やグラフ等を利用して第三者にも伝えられるよう分かりやすくまとめている	○	□			

Action(改善)

VI 日本語教育プログラムの改善

14. 日本語教育プログラムの改善計画の作成・改善の実施

(33)日本語教育プログラムの改善計画を検討している

107)	日本語教育プログラムの改善計画を検討する機会を設けている	○	□			
108)	実施した日本語教育プログラムの課題について解決策を複数検討している	○	□			
109)	日本語教育プログラムの改善計画に学習者の意見を反映している	○	□			
110)	他の日本語教室の事例や、自らのこれまでの取組みを参考にして日本語教育プログラムの改善計画を検討している	○	□			
111)	日本語教育プログラムの改善計画において改善のための今後の具体的な内容・スケジュール・役割分担を明確にしている	○	□			

(34)改善を実施している

112)	日本語教育プログラムの改善計画に基づき、改善を実施している	○	□			
113)	日本語教育プログラムの改善計画の実施状況を記録している	○	□			

指導力評価項目一覧の「Check」と「Action」から、幅広く項目を取り上げてみました。日本語教室の運営の何が課題なのか、このチェックシートでまず点検してみたいと思います。

それから、課題の改善のために必要なステップを他の実践者と一緒に振り返って、改善策を考えるのに活用するつもりです。

改善計画が作れたら、今度は「Plan」と「Do」からも必要な項目を探して、「C→A→P→D」の順番でサイクルを回してみようと思っています。



(3) 日本語教育プログラムの実践の記録について

日本語教育プログラムの実践の記録は、日本語教育プログラムの実践に当たっての課題、目標、経過、成果及び新たな課題等を記録するものであり、実践者が日本語教育プログラムの実践の過程を振り返るために作成するものです。

また、日本語教育プログラムについて振り返り、その内容について検討するだけでなく、日本語教育プログラムの実践の記録を指導力評価に関するチェックシートと照らし合わせることで、実践に必要な指導力について具体的に考えることができます。

(様式)

日本語教育プログラムの実践の記録

1. 記入者名	2. 役割
	<input type="checkbox"/> 地域日本語教育指導者 <input type="checkbox"/> 地域日本語教育コーディネーター
3. 日本語教室の名称	
4. 日本語教育プログラムの実践に当たっての学習者の状況・課題等 (※記録： 年 月 日)	
5. 日本語教育プログラムの目標 (※記録： 年 月 日)	
6. 日本語教育プログラムの実践の経過 (※記録：① 年 月 日, ② 年 月 日)	
7. 日本語教育プログラムの実践の成果 (※記録： 年 月 日)	
8. 今後に向けて (新たな課題等) (※記録： 年 月 日)	

(記載例)

日本語教育プログラムの実践の記録

1. 記入者名	2. 役割
〇〇〇 △△	<input type="checkbox"/> 地域日本語教育指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 地域日本語教育コーディネーター
3. 日本語教室の名称	
××日本語教室	
4. 日本語教育プログラムの実践に当たっての学習者の状況・課題等 (※記録：2012年4月1日)	
・これまで平日にしか日本語教室がなく、働いている人が日本語を学ぶ場がなかった。	
5. 日本語教育プログラムの目標 (※記録：2012年4月1日)	
・平日働いている人を対象に生活に必要な日本語を身に付けられるようにする。	
6. 日本語教育プログラムの実践の経過 (※記録：①2012年6月1日、②2012年8月1日)	
① 教材例集を参考に教室活動を行っている。 ② 最初は学習者が多く集まり、毎週来る人が多かったが、毎回来られない人が出てきており、進度に差が出てきている。	
7. 日本語教育プログラムの実践の成果 (※記録：2012年9月1日)	
・ 毎回、来ている人は日本語が上達し、教室活動で取り上げた内容は大体できるようになった。アンケートでも満足度が高かった。 ・ 毎回、来られない人については、なかなか日本語のレベルが上がっていないように感じる。	
8. 今後に向けて(新たな課題等) (※記録：2012年10月1日)	
・ 何ができるようになりたいかということだけでなく、何ができるようになったかということも把握しながら、教室活動を進めたい。 ・ 教室に毎回来られない人でも参加しやすいように、1回完結型のプログラムを作り、少しでもできるようになることを増やす。	



(4) 研修受講の記録について

研修受講の記録は、指導力の向上のために受講した研修について記録するものであり、実践者が自らの指導力の向上の変遷や理由を振り返り、指導力の更なる向上を促すために作成するものです。

また、指導力評価に関するチェックシートと照らし合わせることで、指導力の向上に向けて取り組んだことと、指導力の変遷を結び付けて考えることができます。実践者の間で共有することで、指導力の向上のための効果的な取組を共有することができます。

(様式)

研修受講の記録		
1.		
研修名		
日時（期間）	場所	主催
内容		
学んだこと		
その他（感想等）		
配布資料等		

(記載例)

研修受講の記録

1.

研修名

地域日本語教育ボランティアセミナー

日時（期間）

2012年11月19日
午後2時～午後5時

場所

〇市△センター

主催

〇市国際交流協会
講師：〇〇先生

内容

- ・指導者の心構えについて
- ・地域の日本語教室における教材の活用方法
- ・生活者としての外国人に対する日本語教育で必要なもの

学んだこと

- ・生活に密着した形で教室活動を実施することが大事
- ・チラシでも地域の回覧板でもいろいろなものが教材になること

その他（感想等）

- ・心構えについては少し抽象的な話だったので、分かりにくかった。

配布資料等

- ・「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について
- ・参考となる教材リスト
- ・レジュメ（A4×4枚）



3. 研修のプログラムの例について

研修のプログラムの例は、実践者の指導力の向上のための研修を地域において実施するに当たって参考となるような例を地域日本語教育指導者、地域日本語教育コーディネーターの別に示したものです。PDCAサイクルに基づいて日本語教育プログラムを実践する過程の各段階で、様々な研修が想定されますが、ここでは研修の対象、目的別に、指導力評価項目を含む研修の内容とその実施の流れの例を4例、記載しています。各地域においては、地域の状況を踏まえ、研修のプログラムの例を参考に研修を企画し、実施することが期待されます。

なお、これは飽くまでも研修のプログラムの一例であり、それぞれの地域・日本語教室の状況、研修内容や参加人数によって柔軟に対応することが望まれます。

例1) 学習者のニーズに合わせた日本語教育プログラムの実施に向けて

対象 地域日本語教育指導者

目的 日常生活に必要な日本語能力の習得のための日本語教育プログラムを作成し、実施する上で必要な能力を身に付ける。

内容 カリキュラム案の理念に沿った日本語教育プログラムの作成及び実施について

○学習者の状況やニーズを踏まえた教室活動

- ・行動・体験中心の教室活動
- ・対話による相互理解の促進
- ・教室活動に必要な準備
- ・地域・学習者に応じた教材・教具
- ・教室活動の記録・振り返り

流れ

10:00～	説明	オリエンテーション
	講義	カリキュラム案の理念について
11:00～	演習①	学習者のニーズから生活上の行為を選択
	演習②	生活上の行為に優先順位を付け、学習順序及び想定時間を計画
12:00～		(休憩)
13:00～	事例紹介	行動・体験中心の教室活動を行っている事例の紹介(複数)
14:00～	演習③	行動・体験中心の教室活動の案の作成
15:00～	紹介	教材・教具の紹介
15:30～17:00	まとめ	教室活動の記録・振り返り

※さらに、教室活動の流れと使用する教材・教具を作成し、その内容について、検討を行ったり、実際に教室活動を行った後に再度集まり、記録を基に振り返りを行うことなども考えられる。

例2) 日本語教育プログラム（教室活動）の振り返り

対 象 地域日本語教育指導者

目 的 実施した教室活動を振り返り、その内容・方法の検証を行う。

内 容 ○カリキュラム案の理念に沿った日本語教育の実施とその振り返り

- ・ 学習者の状況やニーズを踏まえた教室活動の実施
- ・ 行動・体験中心の教室活動の実施
- ・ 対話による相互理解の促進
- ・ 地域・学習者に応じた教材・教具の工夫
- ・ 教室活動の記録・振り返り

流 れ

10:00～	説明	オリエンテーション
10:30～	講義①	地域の状況に応じた日本語教育の実施について
11:00～	演習①	実施した教室活動の共有
13:00～		(休 憩)
13:30～	講義②	教室活動の記録・振り返りについて
14:00	演習②	教室活動の振り返り
15:00～	講義	日本語教育の成果と課題の把握（日本語能力評価）について
16:00～17:30	まとめ	研修の成果と課題の共有・振り返り

※実践者間でそれぞれの教室活動を共有し、振り返り、改善していく活動を通して、経験の長短を問わず、学びを得ることができる。また、実践者の間で日本語教育プログラムに対する共通認識が生まれ、教室運営にも効果がある。

※実施した教室活動の共有と振り返りは定期的に行うとよい（演習①、演習②に該当）。その際、指導力評価項目一覧を活用したり、テーマを立てたりして行うとよい。

（テーマの例：「ニーズを踏まえた教室活動が実施できているかどうか」、「行動・体験中心の教室活動が実施できているかどうか」、「対話による相互理解の促進ができているかどうか」、「地域・学習者に応じた教材・教具の工夫ができているかどうか」など。）

例3) 地域の実情に応じた日本語教室の設置に向けて

対象 地域日本語教育コーディネーター

目的 地域の実情に応じた日本語教室を新たに立ち上げる上で、必要な能力を身に付ける。(特に必要な行政や関係機関等との連携体制のあり方について)

内容 ○地域や外国人の状況の把握
 [・地域や外国人の状況の把握の方法
 ・地域のリソース等の把握]

○日本語教室の目的の設定・日本語教室の設置の考え方
 [・日本語教室の目的の設定
 ・日本語教室の設置]

○具体的な日本語教育プログラムの作成



流れ

〈1日目〉

10:00~	説明	オリエンテーション
	講義①	地域や外国人の状況の把握について
	講義②	学習者の状況の把握の方法及び留意点について
	講義③	学習者のニーズの把握の方法及び留意点について
12:00~		(休憩)
13:00~	講義④	地域のリソース等の把握の方法について
14:00~	講義⑤	日本語教室の目的の設定・日本語教室の設置における留意点について
15:00~	演習①	日本語教室の運営に当たって必要な連携について考える
15:30~17:00	まとめ	課題提示(課題:地域や外国人の状況の把握), 1日目の振り返り

〈2日目〉

10:00~	説明	オリエンテーション
	演習②	地域や外国人の状況に応じた日本語教室の目的について考える
	演習③	必要なリソース・連携体制について考える
12:00~		(休憩)
13:00~	講義⑥	日本語教育プログラムの作成について
14:00~	事例紹介	他地域の日本語教育プログラムの紹介
15:00~	講義⑦	カリキュラム案の理念と活用方法について
16:00~17:00	まとめ	研修全体の振り返り

※1日目と2日目の研修の間に一定程度の期間を設け、課題を課すことにより、2日目の研修がより実践的となる。

(課題の例)

- ・ 地域や外国人の状況の把握, 地域のリソースの把握, 連携体制の構築に向けた計画作成, 日本語教育プログラム案の作成等。

例4) 日本語教育プログラムの改善に向けて

対 象 地域日本語教育コーディネーター

目 的 現行の日本語教育プログラムを点検し、課題を整理した上で、改善計画を作成し、実施するために必要な能力を身に付ける。

- 内 容**
- 日本語教育プログラムの分析・課題の把握
 - ・日本語教室の運営における課題の把握
 - ・日本語教育の実施内容における課題の把握
 - ・教室活動の記録・振り返りの活用方法
 - ・学習者・指導者・協力者の意見等の調査・分析方法
 - ・日本語教育プログラムの分析及び課題のとりまとめ
 - 日本語教育プログラムの改善計画の作成・改善の実施
 - ・日本語教育プログラムの改善計画の検討
 - ・改善の実施に向けて
 - 日本語教育プログラムの実践におけるPDC Aサイクル

流 れ

〈1日目〉

10:00～	説明	オリエンテーション
	講義①	「生活者としての外国人」に対する日本語教育プログラムについて
12:00～		(休 憩)
13:00～	演習①	現行の日本語教育プログラムを点検してみよう
13:30～	講義②	日本語教育プログラムの点検方法について
15:00～	演習②	日本語教育プログラムの分析方法の検討
16:00～17:00	まとめ	課題提示（課題：現行の日本語教育プログラムの分析）、1日目の振り返り

※ 事前課題として、研修1日目の前に受講者がそれぞれの日本語教室の現状を整理しておくとい。

〈2日目〉

10:00～	演習③	日本語教育プログラムの分析結果の発表
	演習④	日本語教育プログラムの課題の把握
12:00～		(休 憩)
13:00～	講義③	日本語教育プログラムの改善計画の作成方法について
13:30～	演習⑤	シミュレーションによる改善計画の作成
15:00～	講義④	PDC Aサイクルに基づく日本語教育プログラムの実践について
15:00～	演習⑥	実際の改善計画案の作成
16:00～17:00	まとめ	研修全体の振り返り

※ 上記2日間の研修に加え、2日目の演習⑥で作成した改善計画案を受講者がそれぞれの現場で実施し、その過程や結果を共有する場をフォローアップの研修として設けるとよい。